

ホテルに連れられまち歩き'13 6月8日(土)

京都工芸繊維大学まちづくり研究会・京都市立松ヶ崎小学校おやじの会主催で「ホテルに連れられまち歩き'13」を行いました。

水路沿いをまち歩きし、地域資源であるホテルを探すことで、身近な環境・景観保全への関心を高めることがねらいです。

当日は、児童・保護者・スタッフ…100名を超える参加となりました。

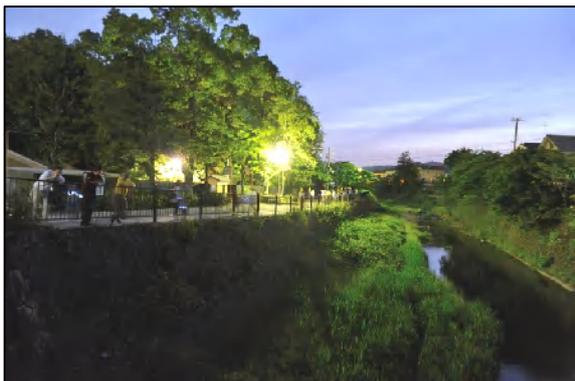
～プログラム～

- 18:00・・・スタッフ集合 受付準備
- 18:30・・・受付開始
- 19:00・・・オリエンテーション
(挨拶・スタッフ紹介・プレスレット配布・写真撮影)
- 19:20・・・学校出発
- 19:50・・・子どもの楽園到着
- 20:20・・・子どもの楽園出発
- 20:50・・・学校到着
- 21:00・・・解散



光るプレスレットを学生さんから一人ひとりにいただき、グループに分かれて、いざ出発。コースは例年と同じ。PTA、松ヶ崎消防分団の方々が安全を見守ってくださいました。

子どもの楽園につくと大きな歓声が…。
見ると川原を走る鹿3頭。ホテルではありませんでした。
もう少し先を行くと、橋の下にかすかに光る光。
そして、飛ぶ光。ホテルです。
遠くからでしたが、確かに見る事ができました。
帰り道、いつものスポットでしょうか、
たくさんのホテルが飛び交う様子を見る事ができました。
お世話いただいた皆様、ありがとうございました。



松ヶ崎の生きた宝物～あざやかな緑色をしたダイヤモンド～

6月22日(土)

京都工芸繊維大学大学院 工芸科学研究科応用生物学部門 准教授 齊藤準(さいとう ひとし)先生を迎え、松ヶ崎周辺に残る、豊かな自然の中にある「生きた宝物」や新しい研究成果などについて話をいただきました。

北山周辺は、京都市の市街地に近接しているながら、豊かな里山の自然が残されています。この環境には、多くの生き物たちがぐらしてあり、身近に自然を感じることができます。

しかし、近代化とともに私たちのライフスタイルも変わり、生活は豊かになった反面、快適な生活をおくるのが、かえって自然と距離をおくこととなったようです。かつては、里山が生活の一部であり、その中でたくさんの虫がいることも知っていましたが、今は、ふれる機会も少ない(虫のことをあまり知らない)ようです。

- 北山の自然と親しみながら、身近な環境に関心を持ちましょう。
- やままゆの飼育を通じて、いのちの大切さを学びましょう。
- コミュニケーションの大切さを学びましょう。

これらは「やままゆ塾の活動目標」です。

私たちも、自然の中でくらす多くの生き物の姿を観ることで、豊かな自然の恩恵と厳しさを学んでいきましょう。



カイコは繭から絹糸(シルク)をとるために人為的に家畜化された虫です。これに対して、野山で生活して、繭を作る野生の絹糸昆虫を、野蚕(やさん)と呼ぶそうです。

いろいろな野蚕をみせていただきました。



標本をみせていただきました。ヤママユの成虫は意外と大きいです。前後左右の翅にある目玉模様(眼状斑紋)は、ヤママユの特徴だそうです。外敵から身を守るために付いているのでしょうか。



ユニークな繭をつくるウスタビガももってきていただきました。

幼虫をさわると、音がするのです。おそろおそろさわってみました。「ピュッ」とかわいらしい音がなりました。



ウスタビガの繭をさわってみました。この繭はとてもユニークな形をしています。繭の下には、穴が。ウスタビガは、雨水が入る上に穴をつくるのではなく、下につくるそうです。自然の知恵ですね。